

中村耳鼻咽喉科だより

＝ 低音障害型感音難聴 ＝

VOL.21

ある日突然、詰まったように聞こえる原因のひとつに、『低音障害型感音難聴』という病気があります。

10代から40代の女性に多いと言われていますが、それ以外の年代や、男性でも起こります。

「突発性難聴」や「メニエール病」に症状が似ている場合があります。

Ⅱ 症状Ⅱ

- ① 低音の聞こえが悪くなる
- ② 耳が詰まった感じ
耳が塞がった感じ
耳に水が入った感じ等
- ③ 低音の耳鳴りがする
(ザーザー、ゴーゴー等)

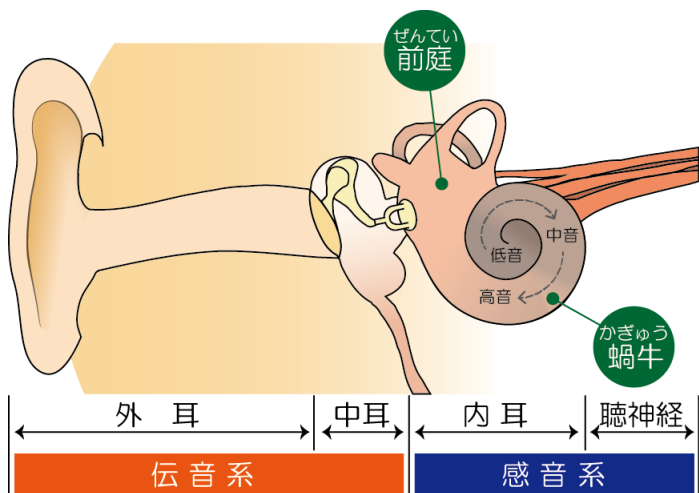
これらの症状が、突然起こります。
一度良くなっても、疲れやストレス等によって繰り返し起こる場合もあります。

Ⅱ 原因Ⅱ

内耳の蝸牛(かきゅう)にある内リンパ液が増えすぎて起こるとされていますが、明確な原因は不明です。

ストレスや疲れ、睡眠不足などが引き金となつて起こる事が多いとされていますが、何もなくとも突然生じる場合もあります。

【内耳について】

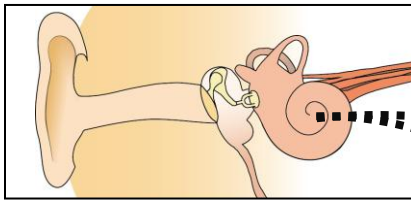


耳は大きく「外耳」「中耳」「内耳」の3つに分けられており、そのうちの内耳には前庭と蝸牛があります。

前庭は平衡機能を司る器官で、ここに障害が起こると回転性のめまいが起こります。蝸牛は聴こえを司る器官で、ここに障害が起こると耳鳴や難聴などが起こります。

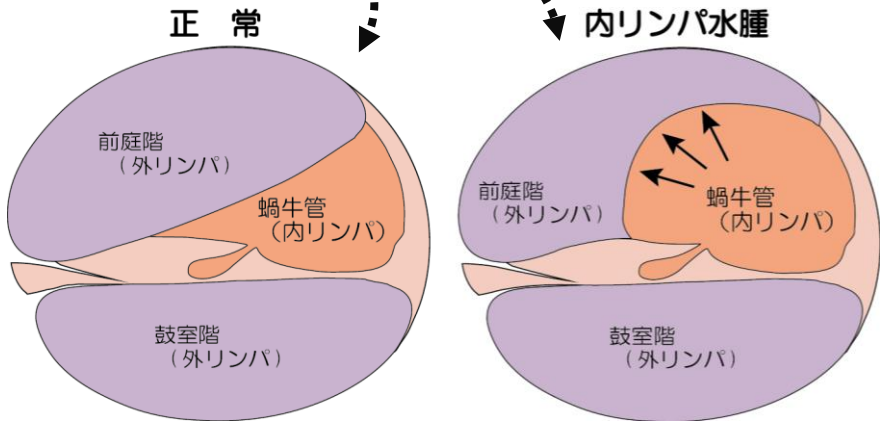
蝸牛はその名の通りかたつむりのような形をしており、その二回転半の階層が上から低音〜高音に分かれています。このうちの低音の部分に障害が起こってしまうのが、低音障害型感音難聴です。

日常会話に必要な音は、500〜2000Hzの中音域ですが、低音障害型感音難聴ではそれより低い音の聴力が低下するため、聞こえにくく感じる事よりも耳が詰まったり塞がったように感じられる事が多いようです。



正常な蝸牛の断面図(右)と、
内リンパ水腫が起こっている
蝸牛の断面図(左)を比べると…

【内リンパ水腫】



蝸牛の中には内リンパ液と外リンパ液があり、内リンパ液が増えすぎて内耳が水ぶくれのようになった状態を、**内リンパ水腫**といいます。これにより低音障害型感音難聴が起こるとされています。

II 治療 II

- ・薬物療法（利尿剤、副腎皮質ホルモン、ビタミン剤、末梢循環改善剤、内耳循環改善剤、精神安定剤など）
- ・ストレス解消
- ・十分な睡眠
- ・適度な運動やストレッチ

利尿剤などを使う事によって内耳のむくみを取る事が主な治療となります。自律神経の安定を図るために精神安定剤などを使う場合もあります。

重症例では、**副腎皮質ホルモン**を使う場合もあります。服用する際には、徐々に薬の量を減らしていきますので、副作用の心配はほとんどありません。

ただし、糖尿病や高血圧の方が使用すると、糖尿病や高血圧が悪化することがあるので使用する際は医師との相談が必要です。

発症してから1〜2週間以内に治療を開始すれば症状が改善される可能性が高くなります。

また、発症してから約1ヶ月後には聴力が固定してくる場合が多いので、**出来るだけ早く治療を開始することが重要となります。**

治り方も人それぞれで、いくつか例をあげると次のようなものがあります。

- ・症状が軽く、薬を飲まなくても治っていく例
- ・治療を始めて症状が改善され、再発しない例
- ・聴力が変動しながら治っていく例
- ・同じ症状を繰り返し例
- ・一定の期間を経て、再び発症する例
- ・メニエール病に移行する例

など様々な場合がありますので、一度聴力が改善したからと油断せず、気になる症状があれば医師に相談してみましよう。